

平成24年新年のご挨拶



(社)全国土木施工管理技士会連合会会長 小林 康昭

新年あけましておめでとうございます。常日頃、全国の各土木施工管理技士会の皆様方から賜っております連合会の活動に対するご協力とご理解に関しまして、心から御礼を申し上げます。

旧年には、3月11日に東日本大震災に遭遇すると言う、未だに傷跡が癒えることがない大変な不幸に見舞われました。お亡くなりになられた方々に追悼の意を捧げると同時に、被災者の方々にお見舞いを申し上げ、そして今もなお、復旧復興に取り組んでおられる関係者当事者の方々のご労苦に対しまして深甚なる謝意と敬意を表したいと存じます。

ところで当連合会は、当時の建設大臣から法人設立許可を得た1992（平成4）年2月27日を創立日としております。従って今年2月27日には丁度20年目を目度く迎えることとなります。

遡れば1969（昭和44）年に土木施工管理技術検定制度が出来たことにより、同年に1級土木施工管理技術検定試験を、翌年に2級土木施工管理技術検定試験を実施して、爾来毎年、世に土木施工管理技士が送り出されて参りました。そして1974（昭和49）年に、現在の全国土木施工技士会連合会の前身である資料頒布会が、任意団体として発足致しました。

この制度の発足当時、この資格を実務に活かす様な仕組みが必ずしも明確とは言い難く、制度に対する世間の認識も、また資格自体に対する当事者自身の自覚も確立しないきらいがあった様であります。それ故に、技士の資格を有する方々が集まって組織を作る気運は、なかなか醸成しなかった様であります。そうした中で、全国に先駆けて初の技士会が静岡

県に誕生したのが、1976（昭和51）年でありました。当時、技士会を作ってどういうメリットがあるのか、と言う躊躇反駁にあって「技士会はメリットを求めて作るのではなくて、作って力をつけてメリットを自ら生み出そう、自らの体質を強化すること自体がメリットなのだ」と言う信念の元に誕生にこぎ着けたそうではありますが、幸いにして先達が抱かれたこの信念は、やがてその後、全国に続々と技士会が誕生していった事実と、その活動実績とで、全国の技士会の皆様方の確信へと昇華していった筈であります。これは即ち連合会自身の存在感にも繋がるものでありましょう。

連合会の発足当時の存在や志は、きわめてささやかなものでありましたが、今では、連合会傘下の技士会は全国の全ての都道府県を制しており、更に技士会の会員は10万人を超えるに至っております。そのような環境にあって、連合会活動の中核に育ってきたCPDSは、年々、活動域が広がってきております。そのほかにも鋭意行っております出版、講習会、研修会、研究会なども、更に多様且つ多面的に活動の輪を広げておりまして、更に会員の方々の技術の向上や啓蒙に向けた努力を重ねて参りたいと念じている次第であります。

今後とも、全国土木施工管理技士会連合会に対しまして、倍旧のご支援とご鞭撻を会員の皆様方に切にお願い申し上げます。最後になりましたが、本年が会員各位にとりまして、より良く幸せな年になりますように、衷心からお祈りいたしまして、年頭のご挨拶といたします。